

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 5 年 5 月 15 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	研究会	行事番号	230000308	
開催日	令和 5 年 5 月 13 日（土）			
時 間	開 始	15 : 00	終 了	17 : 30
場 所	リップルスクエア			
テーマ	血尿・貧血からわかる希少疾患			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院 長嶋和子、佐藤聖子			
講 師	講演 1. 血尿からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 野村 勇介 講演 2. 貧血からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 入谷 康太 講演 3. 血尿、貧血からみつける希少疾患～PNH、aHUS～ アレクシオンファーマ合同会社 日高 亮			
内 容	本研究会は血液検査研究班と一般検査研究班の合同研究会として開催した。 希少疾患ではあるがゆえに血液内科医以外は診断経験がなく見逃されやすいと言われている、発作性夜間血色素尿症（HUS）と非典型溶血性尿毒症症候群（aHUS）に焦点を当てたテーマを取り扱った。 講演 1 では一般検査研究班より、血尿に遭遇した場合にどうするかを「血尿診断ガイドライン」に即した解説が行われ、医師の視点も含めて学ぶことができた。 講演 2 では血液検査研究班より、実際の症例提示では必要な追加検査も交えながら貧血について簡潔且つわかりやすい解説が行われ、貧血の原因が整理できた、という感想が多かった。 講演 3 では PNH と aHUS についてくわしく解説していただいた。臨床検査技師が見つけることで診断に寄与できた例についても情報提供され、今後の業務の励みになる内容であった。 講演 1、2 で WEB 参加者には Zoom の投票機能を用いて問いかけを行い、現地参加者は挙手により回答いただくことで、全員参加型の講演であったことも好評であった。			
参加者	総数：42 名（会員 42 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：47 名			
共催、後援など				

2023.5.15

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 5 年 5 月 16 日 報告者：佐藤聖子

行事種別	研究会	行事番号	230000319	
開催日	令和 5 年 5 月 13 日（土）			
時 間	開 始	15：00	終 了	17：30
場 所	ライブ配信			
テーマ	血尿・貧血からわかる希少疾患			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院 長嶋和子、佐藤聖子			
講 師	講演 1. 血尿からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 野村 勇介 講演 2. 貧血からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 入谷 康太 講演 3. 血尿、貧血からみつける希少疾患～PNH、aHUS～ アレクシオンファーマ合同会社 日高 亮			
内 容	本研究会は血液検査研究班と一般検査研究班の合同研究会として開催した。 希少疾患ではあるがゆえに血液内科医以外は診断経験がなく見逃されやすいと言われている、発作性夜間血色素尿症（HUS）と非典型溶血性尿毒症症候群（aHUS）に焦点を当てたテーマを取り扱った。 講演 1 では一般検査研究班より、血尿に遭遇した場合にどうするかを「血尿診断ガイドライン」に即した解説が行われ、医師の視点も含めて学ぶことができた。 講演 2 では血液検査研究班より、実際の症例提示では必要な追加検査も交えながら貧血について簡潔且つわかりやすい解説が行われ、貧血の原因が整理できた、という感想が多かった。 講演 3 では PNH と aHUS についてくわしく解説していただいた。臨床検査技師が見つけることで診断に寄与できた例についても情報提供され、今後の業務の励みになる内容であった。 講演 1、2 で WEB 参加者には Zoom の投票機能を用いて問いかけを行い、現地参加者は挙手により回答いただくことで、全員参加型の講演であったことも好評であった。			
参加者	総数：88 名（会員 72 名、県外会員 16 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：158 名			
共催、後援など				

2023.5.16

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 5 年 7 月 8 日 報告者：佐藤聖子

行事種別	研究会	行事番号	230001354	
開催日	令和 5 年 6 月 17 日（土）～令和 5 年 6 月 30 日（金）			
時 間	開 始	—	終 了	—
場 所	オンデマンド配信			
テーマ	症例検討会（急性骨髄性白血病）			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	無し			
講 師	1.症例 1（APL） 国立病院機構名古屋医療センター 後藤 勇也 2.症例 2（AML-M0） 小牧市民病院 小川 有里子 3.症例 3（CBFB-MYH11 陽性 AML） 名古屋大学附属病院 亀山 なつみ			
内 容	昨年度に好評であった、顕微鏡観察動画を使用したオンデマンド配信で行った。事前参加登録者に、本動画配信 1 週間前より事前に症例提示スライドを確認していただき、本配信での解説スライドの視聴により答え合わせや不明点の確認として活用してもらう開催方式とし、参加者からはとても好評であった。 症例としては AML の中でも絶対に見逃してはいけない APL や比較的稀な AML-M0、形態に特徴のある CBFB-MYH11 陽性 AML の多様な 3 症例を取り上げて解説を行った。本 3 症例は特徴が全く異なるため、それぞれの注意点と検査の進め方について詳しく解説されており、日常業務における要点を再確認できる内容であった。 また、血液検査に配属されて間もない方や自施設ではなかなか多くの症例に遭遇しない方にもわかりやすかったとの感想をいただいた。 今回のような開催形式についての継続要望が多くあり、オンデマンド配信ならではの内容で参加者の満足度は高い内容であったと思われる。			
参加者	総数：201 名（会員 100 名、県外会員 101 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：293 名			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 5 年 9 月 17 日 報告者：佐藤聖子

行事種別	講演会		行事番号	230008700	
開催日	令和 5 年 9 月 16 日（土）				
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場 所	ライブ配信				
テーマ	ここが知りたい！フローサイトメトリー				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	愛知医科大学病院 鈴木崇峰 技師				
講 師	1. 症例から学ぶ、フローサイトメトリー 藤田医科大学病院 佐藤聖子 2. フローサイトメトリーによる造血器腫瘍の診断－検体処理から結果解釈まで－ 滋賀医科大学医学部附属病院 池本敏行				
内 容	講演 1 では ZOOM 投票機能を利用して参加者へ問いかけを行いながらの進行であった。 提示した 5 症例の細胞形態を見て、なんの細胞か？を 4 択から選択してもらい、集計を行ったのちに診断に繋がるための結果（FCM、染色体遺伝子、病理など）を提示して答え合わせをおこなった。参加者からは自分の力量の確認もできた、迷う症例で面白かったとのこと意見をいただいた。 講演 2 では FCM の基礎的なことのみならず、実際に実施する際の困りごと（コンペーション、抗体の選定、抗体量、コスト等）についても池本先生のご経験も踏まえたうえでお話いただいた。さらに、結果解釈の実際について、講演 1 で提示した症例を使用してさらに詳しく解説いただいた。参加者からは普段疑問に思っていたことが解決できたととても好評であった。 講演 1、講演 2 がリンクした内容であったことも理解を深めることができる構成であったと思われる。				
参加者	総数：96 名（会員 43 名、県外会員 53 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：196 名				
共催、後援など	シスメックス株式会社（会場の貸与）				

2023.9.17

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 5 年 9 月 17 日 報告者：佐藤聖子

行事種別	講演会		行事番号	230008698	
開催日	令和 5 年 9 月 16 日（土）				
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場 所	リップルスクエア				
テーマ	ここが知りたい！フローサイトメトリー				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	愛知医科大学病院 鈴木崇峰 技師				
講 師	3. 症例から学ぶ、フローサイトメトリー 藤田医科大学病院 佐藤聖子 4. フローサイトメトリーによる造血器腫瘍の診断－検体処理から結果解釈まで－ 滋賀医科大学医学部附属病院 池本敏行				
内 容	講演 1 では現地参加者にも ZOOM に入ってもらい、投票機能を利用して参加者へ問いかけを行いながらの進行であった。 提示した 5 症例の細胞形態を見て、なんの細胞か？を 4 択から選択してもらい、集計を行ったのちに診断に繋がるための結果（FCM、染色体遺伝子、病理など）を提示して答え合わせをおこなった。参加者からは自分の力量の確認もできた、迷う症例で面白かったとのご意見をいただいた。 講演 2 では FCM の基礎的なことのみならず、実際に実施する際の困りごと（コンペーション、抗体の選定、抗体量、コスト等）についても池本先生のご経験も踏まえたうえでお話いただいた。さらに、結果解釈の実際について、講演 1 で提示した症例を使用してさらに詳しく解説いただいた。参加者からは普段疑問に思っていたことが解決できたとても好評であった。 講演 1、講演 2 がリンクした内容であったことも理解を深めることができる構成であったと思われる。				
参加者	総数：20 名（会員 20 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：14 名				
共催、後援など	シスメックス株式会社（会場の貸与）				

2023.9.17

愛臨技學術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 6 年 1 月 21 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	基礎講座	行事番号	230018431	
開催日	令和 6 年 1 月 21 日 (日)			
時 間	開 始	9 時 00 分	終 了	16 時 30 分
場 所	名古屋大学医学部基礎棟			
テーマ	血液像の見方			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院 佐藤聖子 技師			
講 師	講演 1：末梢血液標本の見方 豊田厚生病院 蒲澤 康晃 講演 2：一緒に細胞を分類してみよう！ 日赤愛知医療センター名古屋第二病院 白木 涼 講演 3：症例解説 血液検査研究班員 午後：顕微鏡実習 血液検査研究班員			
内 容	午前の講演 1 では末梢血塗抹標本の見方について、白血球 5 分画、赤血球、血小板の正常像から異常所見を含め、多くの写真を提示しながらの解説であった。 講演 2 では細胞所見のおさらいをした後に事前に配布した色紙を用いて、クイズ形式で細胞の分類を参加者で行った。回答が割れた問題については丁寧に解説を行い、全員参加形式であることも好評であった。 講演 3 では午後の顕微鏡実習で使用する主な 5 症例について解説を行った。これまでは顕微鏡実習の後に解説を行っていたが、今回は初心者や不慣れな方を対象にした会であったため、実習前に解説を行うことで理解を深めてもらえたように思われる。 午後の顕微鏡実習では初めてディスカッション顕微鏡を使用し、交替でグループ毎に担当者から指導を受けた。初めての試みであったため、改善すべき点はいくつかあったが、血液像判読に不慣れな参加者からはとても好評であった。次年度以降も継続して活用していく予定である。			
参加者	総数：47 名（会員 44 名、県外会員 名、非会員 3 名、賛助会員 名、学生 名、その他 名、）・申込総数：37 名（病欠のため欠席 1 名）+班員 11 名			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：令和 6 年 2 月 16 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	研究会		行事番号	230022504	
開催日	令和 6 年 2 月 10 日（土）				
時 間	開 始	15 時 00 分		終 了	17 時 00 分
場 所	JA あいちビル 14 階大会議室 （愛知県名古屋市）				
テーマ	令和 5 年度愛臨技精度管理報告会、クロスミキシング試験を始めよう！				
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点				
司 会	小牧市民病院 小川 有里子技師				
講 師	講演 1：令和 5 年度愛臨技精度管理報告会（CBC、凝固） 豊田厚生病院 藤上 卓馬 講演 2：令和 5 年度愛臨技精度管理報告会（形態） 日赤愛知医療センター名古屋第二病院 白木 涼 講演 3：クロスミキシング試験を始めよう！ 国立長寿医療センター 棚橋 真規夫				
内 容	令和 5 年度の愛知県臨床検査技師会精度管理調査について、血球計数部門および凝固線溶項目、血液形態部門について解説を行った。 血球計数部門では加工血球を使用し、すべての項目で機種別集計評価を行った結果、CV 値は良好であった。凝固線溶項目（評価外）では、設問形式で検体の取り扱いやクロスミキシング試験や結果解釈についての調査を行い、いずれも良好な結果であった。 血液形態部門では、大半の設問で良好な正答率であったが、顆粒球系細胞の成熟段階の設問で正答率 100%に満たなかったことから、現在発行されている日本検査血液学会血球形態標準化 WG の顆粒球系細胞の分化連続画像を参考に、鑑別ポイントについて詳しく解説を行った。 講演 3 では、クロスミキシング試験について講演いただいた。クロスミキシング試験は凝固時間延長のスクリーニングに有用な検査であるが、標準化されていないことから実施していない施設にとっては難しい印象を受けるため導入しづらいのが現状であるが、実際の手技が提示された内容であり、今後始めたい施設の方へのサポートとなり得る内容であったと思われる。				
参加者	総数：36 名（会員 31 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 5 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：34 名				
共催、後援など	なし				